

学校教育目標	学びをつなぎ 豊かに表現し よりよいものを 主体的・協働的に求め続ける 三幸っ子の育成 ～ ひたむきな教育活動の積み重ねから ～		
a ミッション	小中連携教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進による 主体性・表現力の育成	a ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> 夢や希望がもてる…目標に向けひたむきな学校 一体的に取り組む…組織的に取り組む学校 積み重ねる……丁寧実践を重ねる学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h	i	j 結果と課題の説明	k 二次評価			m 改善案
					達成値	達成値	達成度	評価		イ	ロ	ハ	
予測不能な社会を生き抜く児童の育成	<p>確かな学力の向上 「社会の中で生きて働く資質・能力の育成」</p> <p>〇「知識・技能」「表現力」「主体性・協働性」の着実な向上 (着実に基礎学力を身に付け、自分の考えを持ち、友達と協働して粘り強く課題に立ち向かう姿)</p> <p>・GIGAスクール構想のさらなる推進</p> <p>〇15歳で目指す姿を意識したカリキュラム・マネジメントの推進 (学びをつなぎ、自ら探求しようとする姿)</p>	<p>〇授業改善 ・GIGAスクール構想における単元開発の推進(算数科において、ICT機器を活用した自力解決支援・共有機能による交流の充実によって、主体性・表現力を育む) ・タブレット研修の充実(月に1回以上)</p> <p>〇学びに向かう意識の向上 ・振り返りの徹底と充実 ・振り返り評価基準の活用</p> <p>〇教科横断的なカリキュラムの実践 ・言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力を活用したカリキュラムの作成</p>	<p>〇標準学力調査(算数科)で全国平均比100%以上 (1・2学期は、算数科学期末テスト)</p> <p>標準学力調査(算数科)全国平均比100% 算数科学期末テスト通過率80%</p>	<p>84%</p>	<p>82%</p>	<p>105%</p>	<p>A</p>	<p>ICT機器の活用を含む自力解決、交流の充実といった授業改善に取り組んだ結果、一学期末に実施した算数科の一学期末テストは、通過率の目標値80%に対して達成値84.3%であり、目標を達成することができた。一方で、通過率80%未満の児童もいることから、すべての児童に基礎基本を定着させるという点に課題が見られる。目標値の80%を達成できなかった児童への朝のドリルタイムや昼のチャレンジタイムを活用した授業内外でのサポート、基礎基本の更なる定着に向けた授業改善やタブレットのeライブラリを含むドリル学習に取り組んでいく。</p>	<p>3</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>・目標達成に向けた教職員の取組は本筋に素晴らしいと思います。 ・算数科での通過率80%の達成値が高いことは、先生方が一人ひとりの児童に対して、丁寧に寄り、授業を行っているからだと思いました。</p> <p>次点の2点に取り組む。1点目は、学びをつなぐことの有用感を実感できる場を設けることである。カリキュラム・マップの直直しを通じ、課題解決の過程で、マップに繋がりを書き込んでいき、視覚的にも有用感を捉えさせる。また、総合的な学習の時間などを中心に、各教科の学びを生かし、主体的に課題解決したことを表現する場を設ける。2点目は、学びをつなぐことの意義を捉えさせる。先行き不透明な社会の中で、様々な課題を他者と共に考え、解決していく力が求められる。その過程で、各教科で学んだ知識を基に思考を張り巡らせ、解決していくことが実社会の中でどう繋がっていくかを学校全体で行われていることがよく分かりました。</p>	
	<p>豊かな心の育成 「互いを認め、よりよく関わり合う心の育成」</p> <p>〇自己肯定感を高め、お互いを大切に学ぶ学級集団づくり</p>	<p>〇仲間意識を育てる場の設定 ・構成的グループエンカウンターやソーシャリススキルトレーニングの実施(学期1回以上) 〇全員が認められる機会の充実 ・誕生日集会 ・ありがとう週間 ・帰りの会 質の向上 〇人の役に立つことが実感できる場の充実 ・係活動 ・わくわくボランティア</p>	<p>〇安心して学校に通わせている(保護者アンケート)</p> <p>〇学校が楽しい(生活点検)</p> <p>〇自分にはよいところがある(道徳アンケート)</p>	<p>85%</p>	<p>93%</p>	<p>109%</p>	<p>A</p>	<p>7月に行った保護者アンケートによると「安心して児童を学校に通わせている」と肯定的評価をしていた家庭は98%であった。一方で、児童の友達関係に不安を抱えている等の問題もみられた。児童や保護者のアンケートで把握した問題については、個別に素早い対応を行い、早期発見・解決に努めている。今後は児童の思いに寄り添い、保護者の思いも受け止めながら、真摯に日々の実践を進めるとともに、各教員で再認識していく。</p> <p>「学校が楽しい」の項目では、おおむね生活満足感が高く、充実した学校生活を過ごしている児童が多い。一方で、学習への意欲や悩みから否定的評価をしている児童もいる。児童一人一人の目を向け、よりきめ細かい支援をしながら、学ぶことが楽しくと思えるように、授業づくりの工夫や改善を行う。</p> <p>6月に実施した道徳アンケートの「自分にはよいところがある」の項目では、84%の児童が肯定的評価をしている。しかし、16%の児童が自分に自信がなく、よいところがあると感じていないことがわかる。</p>	<p>3</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>・児童は、教職員との心のつながりを望んでいると思います。引き続き、児童への声掛けを行い、問題の早期発見に努めてください。</p> <p>・多数の児童は、充実した学校生活を送り、自分に対し肯定的な評価をしていると思います。一方で肯定的な評価をしていない児童もいるので、今後も児童が自分の思いが込め、自発的に活動をしていけるように意識して取り組んでください。</p>	
	<p>健やかな体の育成 「目標へのチャレンジによる気力・体力の向上」</p>	<p>〇体力・運動能力の向上 (運動に親しみ、自ら目標を立て実現しようとする姿)</p> <p>〇業間体育 ・「100周マラソン」で毎月5周走りきることを徹底する。</p>	<p>〇授業改善 ・準備運動に足上げ腹筋とグーパー運動を毎回実施する。</p> <p>〇業間体育 ・「100周マラソン」で毎月5周走りきることを徹底する。</p>	<p>〇全学年12月までに新体力テストを再度行い、そこで握力・上体起こし・20mシャトルランの6項目で全国平均以上</p>	<p>全国平均値100%以上</p>	<p>87%</p>	<p>87%</p>	<p>B</p>	<p>健やかな体の育成のために、今年度は新体力テストの記録を令和元年度の全国平均と比較し、「握力」「シャトルラン」「上体起こし」男女別6項目の全国平均値以上を目指している。</p> <p>現在の達成率は87.4%だが、目標達成のための方策である「授業時の準備運動にグーパー運動や足上げ腹筋を毎回実施すること」や「100周マラソンで毎回5周以上走る」ことを着実に実行し、児童の運動能力を向上させた。</p>	<p>3</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>・目的意識を高めることで、児童にやる気が起き、力がついていると感じました。</p> <p>2点目は、「100周マラソン」について、児童に目標を再認識させたマラソン大会への参加を奨励させたことで、保護者との連携が必要だと思いました。</p>
<p>子供と向き合う時間の確保 「働き方改革の推進」</p>	<p>〇危機意識を持ち、知恵を出し合い、よりよいものを求め続ける教職員 (常によりよいものを求め続ける教職員の姿)</p>	<p>〇業務改善の推進による子供と向き合う時間の確保 ・月1回の業務改善協議会実施(働き方改革への意識改革) ・定時退校日完全実施。</p>	<p>〇時間外在校等時間の月45時間以内の教職員50%</p>	<p>50%</p>	<p>86%</p>	<p>86%</p>	<p>B</p>	<p>4月から7月までの達成度を平均すると43%となり、達成率は86%となった。月に一度の業務改善協議会で出されたアイデアを実行することにより、少しずつ改善が見られるようになった。成績処理等の仕事が立て込んでくる学期末に時程を変更し、放課後の業務時間を確保したり、退校時刻を定めその時刻を意識しながら業務を進めるようにしたりするなど、工夫を行うことで業務改善を進めることができた。一方で、教材研究等授業のための準備時間が十分確保できているとは言えず、働き方改革と業務の充実との両立が課題である。</p>	<p>2</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>・働き方改革の推進は、学校・家庭・地域が一体となってはじめて成果が出るものだと思います。その中で、少しずつ改善されていることは教職員の意識統一がされている結果だと思えます。</p> <p>・働き方と教材研究、授業準備等、なかなか難しい問題かと思えます。しかし、先生方が意識して働き方を変えていこうとする姿勢が感じ取られます。</p>	